

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	機能再建・再生科学領域形成外科学教育研究分野 氏名 飯田圭一郎
指導教授氏名	漆館聡志
論文審査担当者	主 査 中澤 満 副 査 澤村大輔 副 査 大山 力
<p>(論文題目) Prevalence and associated characteristics of aponeurotic ptosis among a general population in Japan (日本の一般住民における腱膜性眼瞼下垂の有病率と特性)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究では本学独自のフィールドワークである岩木健康増進プロジェクトに 2016 年度に参加した一般住民 1,004 人を対象として、眼瞼下垂症の背景にある基礎疾患や臨床症状との関連性についての解析が行われた。</p> <p>対象となった 1,004 人はあらかじめ白内障・網膜剥離・顔面神経麻痺患者、眼瞼下垂症手術歴のある患者およびステロイド使用者が除外されていた。眼瞼下垂を MRD (margin reflex distance)-1 値が 2.0mm 未満と定義し、この基準に従って対象者を眼瞼下垂症群 (N = 155) と非下垂症群 (N = 849) の 2 群に分け、年齢、性別、視野障害の有無、頭痛、肩こり、高血圧症、糖尿病、脂質代謝異常症および BMI を独立変数としたロジスティック回帰分析による多変量解析を行うことで眼瞼下垂症との関連性を検証した。</p> <p>その結果、眼瞼下垂症に関連性が有意に高いと認められた因子は 65 歳以上の高齢 ($P < 0.001$)、男性 ($p < 0.001$)、高血圧症 ($P = 0.014$)、脂質代謝異常症 ($P = 0.039$)、BMI 高値 ($P = 0.033$) であったが、視野障害、頭痛、肩こりに対しては非眼瞼下垂症群との間に有意の差異はみられなかった。</p> <p>本研究により高齢者、男性、高血圧症、脂質代謝異常症が眼瞼下垂症のリスクファクターであることが示唆された。この結果から、眼瞼下垂症が眼瞼部の循環障害と関連している点や、逆に眼瞼下垂が交感神経緊張を介した高齢者の高血圧症の原因ともなりうる可能性が明らかになった。本研究は本学独自のビッグデータを用いた研究であることに大きな特色があり、眼瞼下垂症を正しく認識することで、その予防法を講じたりすることや、適切に治療することが高齢者の健康に一定の役割を果たす可能性を明らかにした点で、医学の発展に資すると評価される。以上より、本研究は学位授与に値するものと認められる。</p>	
公表雑誌等名	弘前医学 71 (2-4), 2021, 掲載予定